

性とセクシャリティの  
とりどり  
に寄せて  
にじいろBiwako

## 11. 仏教とジェンダー

NPO法人にじいろBiwako  
理事

あんじき  
安食

しんじょう  
真城



「父には絶対にカミングアウトできません」——。ある学生のその一言がずっと気になっていました。カミングアウトとは、自分がLGBTQなどの性的マイノリティであることを相手に伝えることを言います。その学生のお父様はお寺の住職で、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべき」という規範に厳しい人なのだとか。子どもの苦しみを受け止めてはくれないだろうという、あきらめの言葉だったのです。

「東京レインボープライド」という性の多様性を認めあう社会を目指すイベントに、龍谷大学の学生たちとブースを出展したときのこ



“お寺が変われば、社会も変わる”

とです。来場者から「龍谷大学って仏教系なのに、なぜブースを出しているの?」、「LGBTQと関係あるの?」と聞かれたのです。「仏教ってお葬式をしたり、亡くなった人の法事をしたりするところでしょう」と。

本来、「生きとし生けるすべてのものを救う」という仏の教えは、さまざまな土地や民族の文化を融合し変化を繰り返すことで、私たちの暮らしに寄り添い続けてきました。にもかかわらず、古いしきたりや固定的な観念に安住するあまり、性別役割やジェンダー規範を押し付けることになり、性的マイノリティの生きづらさに寄り添うことをしてこなかったことは、私自身、僧侶として大いに反省しなければならぬと思います。

いま、ようやくお坊さんたちも動き始めました。性の多様性を象徴する「レインボーの旗」をお寺に掲示する人や、同性結婚式を積極的に執り行うお寺もあります。身近なお寺が変われば社会も変わる。宗教が、きっと誰にとっても安心できるよりどころになると信じています。